

壬生寺みぶは五条坊門朱雀しゅじやくの東にあり、宗旨は真言律にして和州招提寺せうだいじに属す。本尊地藏菩薩は坐像長三尺にして定朝ちやうてうの作なり。当寺の草創は一条院御宇正暦二年にして、開基は三井寺みゐの快賢大僧都くわいけんなり。「姓は藤氏とうしにて粟田関白道兼公あはたくわんぱくみちかねの支族なり、智証大師ちしやうに隨身して天台の奥義を究む、永承十六年十一月十六日寂す」地藏の尊像彫刻の志願を発し、仏工定朝やうてうに命じて一千日の間に作り終る、相好円備して恰生身に向ふが如し、是当寺の本尊なり。又持物の錫杖は、落慶らくけいの日本尊の四方霧深くして異香薫じ、音楽幽に聞へて聖衆来迎の如し、午の刻に及んで漸霧晴たり、本尊を拜すれば忽然として六輪の錫杖を持し給ふ。又本尊ある夜の夢に、此錫杖は釈尊伽羅陀山にして延命地藏経を説給ふ時、地中より出現なりと告給ふ。当時の最初は草堂にて此本尊を安置す、寛弘二年に堂供養あつて小三井寺こみゐてらと号す。其後順徳院御宇建保年中に、和州前吏平朝臣宗平本尊たひらのあそんむねひらの利益を蒙りてより、堂舎僧坊悉造営す、此時は寺を宝幢三昧院ほうとうざんまいと号す、又地藏院とも称す。白川院鳥羽院後白河院順徳院しらかはのあんとはのあんごしらかはのあんじゆんとくあんなども信敬ありて、行幸ぎやうけいならせ給ふ事当寺縁起に委し。中興は円覚上人えんがく。〔和州服部はつとうの産にて藤原広元ひろもとが子なり〕大念仏〔円覚上人えんがくより始る、毎年三月十四日より廿四日に至る、種々の猿楽をなす、是を壬生の狂言といふ〕壇供〔毎歳正月もちる鏡を備ふ、諸人これを請て横難を免る〕